



生徒数 565名	
1年生	184名
2年生	179名
3年生	202名

## 新型コロナウイルス第4波 感染防止に最大限の注意を！

福岡県において「緊急事態宣言」が発令され、さらに6月20日まで延期という厳しい状況です。北中においてもGWに関係者の感染が認められ、保健所から自宅待機を指示される事態になりました。もう、他人事ではなく、生徒、保護者、教職員、全ての関係者が『当事者』としての意識が求められる状況になりました。どんなに感染防止対策を講じていても「ウイルスが侵入する」ことは避けられません。大切な事は、「ウイルスの広がり」を最小限に食い止める」という意識を関係者全員で共有することです。

GW明けに、臨時の全校放送でこのような話をしました。



(中略)

今までは、少し離れたところで起きていることとして、「見えない」「わからない」という不安な気持ちをもっていましたが、もう「自分事」なのです。

校長先生も今回、PCR検査を受けました。みんな新型コロナに対し不安な気持ちを持っていますが、不安な気持ちを、誰かを攻撃したり、仲間はずれにしたりする気持ちに変えてはいけません。

もし、北中から感染した人が出て、みなさんには差別やいじめの言葉ではなく、「大丈夫?」「大変だったね」「がんばって」と、思いやりの言葉をかけられる人であってほしいと信じています。

**戦う相手はウイルスです。不安な気持ちに負けずに、思いやりの心で行動してください。**

北中の生徒の学びが立ち止まらないために、校内では感染防止対策を緩めずに取り組んで参ります。各ご家庭では、先日安心メールでお伝えしたように、○毎日の検温、○風邪症状等がでた際の対応、さらに、○同居家族の濃厚接触者に特定された際の学校への連絡等を確実に行っていただき、この状況を力を合わせて乗り切っていきましょう。

## リモート「朝の会・帰りの会」 自宅待機中でも、つながれました

GIGA スクール構想の取り組みにおいて、1人1台パソコンが支給されていましたが、学校の先生達の中でパソコンに詳しい人材は限られており、手探りで活用方法を進めていきました。そのような中で、自宅待機という緊急事態となりました。生徒のみなさんへの課題の配



信、朝の会・帰りの会をリモートで行い、健康観察も入力ひとつで把握できるという、学校におけるパソコン活用が加速的に進みました。今後も様々な場面でパソコンの活用方法を模索し、一人一人の学びを支えるアイテムとして利用していきます。

6月4日(金)では、生徒全員に対して、パソコンを自宅に持って帰って活用する練習を行いました。またいつ来るかわからない非常事態にしっかりと備えたいと思っています。



## 体育会 再延期... されど、気持ちを切らさずに！

6月11日(金)に延期していた体育会が、「緊急事態宣言」延期を受けて、再延期となってしまいました。



感染防止対策、さらに熱中症への対策など、課題は多く存在しますが、生徒のみなさんの「心の健康」においては、仲間と一緒にひとつのものを創り上げる経験は『必須』であると考えます。

「密」を避けるように種目を変更したり、PTCAにご理解いただき、テントを追加設置したりと、なんとかして頑張ってきた生徒の想いに応えたいと考えています。

## ようこそ、先輩！！ 教育実習生の先輩方が来られました

5月24日(月)から2週間もしくは3週間の間、教育実習が行われました。実習生5名は皆、北中の卒業生で、今回久しぶりに母校にもどり、後輩達に指導するという事で、緊張と感動の毎日を過ごしています。



体育科 有田先生



数学科 坂元先生



社会科 内門先生



理科 松山先生



養護 松本先生



# 新学習指導要領の実施に伴い、「観点別学習評価」が3観点になります

昨年の学校通信でも少し触れていましたが、学習指導要領（国が定めている教育課程の基準）の改定のねらいは、「社会に開かれた教育課程」といわれているように、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有していこうということです。そして、その実現のために、学校で子供たちに身につけさせる三つの「資質・能力」がまとめられました。

これは、今までも重視されていたことですが、より教える側が「学んだことを、社会や実生活で生かせるか」という視点で授業および評価をするように、ということです。

- |  |
|--|
| <p><b>(1) 実際の社会や生活で活かせる知識・技能</b><br/> 「何を理解し、何ができるか」（単に「知っている」「できる」ではなく）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○知識・・・知識を身につけるだけでなく、以前に学んだ知識と関連付けたり組み合わせたりしていくことにより、深く理解し、社会における様々な場面で活用できる知識</li> <li>○技能・・・一定の手順や段階を追って身に付く個別の技能のみならず、獲得した個別の技能が自分の経験や他の技能と関連付けられ、変化する状況や課題に応じて活用できる技能</li> </ul>                              |
| <p><b>(2) 未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等</b><br/> 「理解したことをどう使うか」 下の三つの過程をうまく組み合わせる能力を育てます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○問題を見いだす→解決の方向性を決定し、解決方法を考える→結果を予測しながら実行する→振り返って次の問題発見・解決につなげていく力</li> <li>○調べたり、選んだ情報を基に自分の考えをつくる→文章や対話によって表現したり、伝え合う→多様な考えを理解したり、集団としての考えをまとめたりする力</li> <li>○思いや考えを基に構想する→意味や価値を創造していく力</li> </ul> |
| <p><b>(3) 学んだことを社会や人生に活かそうとする、学びに向かう人間性等</b><br/> 「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」（社会や実生活に生かそうとする）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力</li> <li>○メタ認知・・・自己の感情や行動をコントロールする力、自らの思考を客観的に捉える力など</li> <li>○多様性を尊重する態度や協働する力、チームワーク、感性、優しさや思いやりなど、人間性</li> <li>○持続可能な社会づくりに向けた態度</li> </ul>                    |

これら3つにまとめられた「育成すべき資質能力」を育むために、以下のような流れで「評価」します。

